

平成29年度 各区 子どもの読書活動推進連絡会 報告

1. 構成メンバー

ボランティアグループ、区役所（市民協働担当、保健福祉担当、子育て支援担当、地域福祉担当、生涯学習担当など）、保育所、つどいの広場、子育て支援センター、子ども・子育てプラザ、幼稚園、小学校、中学校、区社会福祉協議会、地域文庫、主任児童委員など

2. 主な報告

(1) 「第3次大阪市子ども読書活動推進計画（素案）」について

- 専門用語が多く、表現の繰り返しも目立ち、わかりにくい
- 第2章に書かれた各取組のスケジュールが粗い
- 「デジタルネイティブ」といわれるティーン世代に対する取組が必要であることに同感だ。
- 「病院での子どもの読書支援」など、手が届きにくい子どもへの読書支援の一文を推進計画に入れてほしい。

(2) 学校図書館活用推進事業 3年目を迎えて

①学校図書館補助員の配置

- 補助員がいるあいだ、学校図書館を開けることができ開放時間が増えた。
- 学校図書館がきれいになった。
- 日本十進分類法による配架を取り入れることができた。
- 補助員がいる曜日には必ず学校図書館に行くという子どもがでてきた。
- コンピューター化（貸出返却等の管理ソフトの導入）が進んだ。

②学校での取組

- 職員室の近くに「第二図書室」を設置した。絨毯敷き、ローテーブルなどを置き、ゆったりとした空間を作ったことで、今まで本を読まなかった生徒が来るようになった。
- 急激に児童数が増えたが、学校図書館の蔵書冊数を増やすには、収容力に無理があるため、学級文庫の充実を図ることで対応している。
- 小中一貫校になったことを活かした取り組みを実施した。地域図書館から絵本を借りて「絵本の広場」を開催した。その際、1年生から8年生で学年を超えたペアを作って、45分間の決められた時間内で上の学年が下の学年に読み聞かせを行った。中国語を母語にするペアもできるなど楽しめたようだ。普段みられない児童の一面が見られ、中学校の先生に好評だった。
- 「読書カード」や「読書ノート」を全学年に配布した。
- 年間の読書冊数目標を掲げたり、読書週間にお勧めの本の紹介や「読書の木」をしたりした。
- 読書だけでなく、図書を使って調べることにも取り組んだ。

③課題

- 毎日、図書委員会児童による学校図書館開放をしているが、来館人数が伸びない。
- 今年度から学校図書館を学習ステーションとしても位置づけ、学習教材を図書の予算でたくさん購入したものの、生徒は来館しなかった。
- タブレットを使用した学習もあり、本離れを助長するような印象がある。
- 学校図書館オリエンテーション時には「本を借りたい」という感想が出るが、実際は部活等で忙しく、なかなか利用につながらない。
- 国語の単元で昔話があるが、有名な昔話を知らない子どもが増えてきた。学校図書館に絵本も増やしていきたいと考えている。
- 映画のノベライズが人気。マンガに近いものを好むなど読書傾向の変化を感じる。手に取ってもらいたいと考え、そういったものを選書しているが、それでいいものかとも思っている。
- 「読書手帳」の配布や、「読書ビンゴ」を開催するなど積極的に取り組みをした。それをきっかけに学校図書館に来館する子どもが増え、昨年度よりも貸出も大幅に増加したが、「読書が好き」と答える子どもの割合は減った。利用実態がアンケートに反映しない原因は、子ども自身が他の子と比べて、「自分はあまり図書を借りていないから、読書が好きとは言えない」と考えてしまっているのではないか。
- 学校図書館の整備はしたので、先生の意識を高める必要がある。
- 英語教育の移行期間のため、朝読が英語の時間になっている。

(3) 連絡会参加者の意見より

① おとなへの働きかけ

- 読み聞かせに、お母さんが楽しんでもらえる絵本も選び、ほっこりとした時間の共有ができたらと考えている。
- 親子で絵本が楽しめるような行事になるよう工夫している。
- まず親に楽しんでもらって、家庭でのヒントになればと思う。
- 忙しくて絵本を読んであげられないと思っている保護者にとって、つどいの広場の読み聞かせなどが良いきっかけになればと思う。
- 子育てに不安のある保護者を集めた教室で、保護者向けに絵本の読み聞かせをしている。保護者自身が「読んでもらう」経験が少ないこともあるので、おとな向けの読み聞かせが広がったらいいと感じている。
- 週末に園児たちが借りて帰る本の「絵本カード」を保護者に書いてもらっている。絵本を読んでいる時のわが子の表情などコメントを記入してもらっている。夏にくっかの「絵本カード」を選び、配布した。書き方に悩んでいる、子どもとの関わり方に悩んでいる保護者の参考になったように思う。
- 区で配布した「読書ノート」について、未就学児用には「えほんふれあいノート」とし、読み聞かせをわが子にしたら親が記入するようになっている。このノートを通じて、保護者に意識を向かせることができると思う。
- ブックスタートで一時的に意識が向くが、その後がないため、2,3歳児の保護者向けに講座を企画している。

② 外国にルーツをもつ子どもたちへの働きかけ

- 外国にルーツを持つ子どもが増えてきたので、外国語の絵本も利用したいと考えている。

《資料3》

- 中国語、韓国/朝鮮語を母語とする子どもが多いので、今年度の取組みとして通訳の方や、外国にルーツを持つ保護者の方に絵本の読み聞かせをしてもらった。
- 日本語がわからない子どももいるので、絵だけでも楽しめる本を使っている。
- ブックスタート時に、外国語の絵本を地域図書館職員に持ってきてもらっている。生活の場でニューカマーの子どもは日本語を覚えるが、自国の文化も学べるようにと外国語絵本を勧めている。

③ 読み聞かせの現場から思うこと

- 読み聞かせやおはなし会の参加者の低年齢化、小学生の参加が少ない。
- 現代の子どもは塾や習い事で忙しく、本を読む時間がない。
- デジタルでの読書が増えているように思う。
- 小さい頃からの積み重ねが今に繋がっていると思う。

④ ボランティアについて

- メンバーが高齢化し、自身の体調や介護などにより、活動しにくいメンバーもでてきた。一人当たりの負担が増加している。
- メンバーの確保が課題
- 29年度は特に小学生1年生の児童数増加に伴い、クラス数も増えた。小学校での「おはなし会」はクラス単位で行っているため、今後の対応を考えていく必要があると思っている。
- 初めてメンバーに外国の方が加入された。手遊びなどは動画を見て練習したり、絵本の内容をしっかりと確認したり、とても熱心であり、彼女たちから学ぶことがたくさんあった。

⑤ 各現場での取組と課題

- 障がいのある子どもたちに、ペープサートやパネルなど見てわかるものを使って読み聞かせを行った。どう受けもらえるかなと思いつつ行っている。
- 1分間で読みきれぬ絵本を膝の上に子どもをのせて読む「ざぶとん読み」を実施した。職員にお任せが多かったが、保護者が自身の膝の上にのせて読む姿が増えてきた。
- 本にふれるということは、歴史で積み重なった英知を知るという事で、子どもたちのキャリア形成にもつながると思う。本にふれる機会を作るということを意識したい。
- おはなし会等で小学生の間に聞く力を培えば、中学生になっても継続しておはなしが聞ける子である。
- 読書をする子としない子の差が激しく、また、設定されている本の対象年齢が子どもたちの読む力と合わなくなっているように思う。
- 区役所内に寄贈いただいた本を「本のコーナー」として設置している。利用も多く、時々、職員による読み聞かせも行っている。
- 昨年の連絡会で聞いた人気のシリーズ本やお母さんからのリクエスト本を購入した。少ない予算での図書選定が課題だ。
- 小・中学生の子どもたちに向けての選書が難しい。マンガが多くなってしまった。
- 外部講師（絵本コーディネーター、絵本セラピスト、絵本プレゼンターなど）による講座を開催した。

「学校図書館活用推進事業」について

●学校図書館図書整備

【概要】学校の規模にかかわらず各校で最低必要な蔵書冊数を「大阪市図書標準」（小学校：7,000冊、中学校：8,000冊）と定め、図書標準に達していない学校に対して、不足分を購入するための図書購入費を3年間で計画的に配当し、図書整備を行う。（平成27～29年度）

- ・平成29年度末をもって、全小中学校で大阪市図書標準を達成し、図書整備は終了した。
- ・その後も、選書や廃棄に対して、情報提供など必要な支援を行っている。
- ・平成30年10月から12月にかけて、指導部と学校経営管理センター、中央図書館の連携のもと、「学校図書館の蔵書構成の充実に向けた取組み」を行い、学校図書館補助員コーディネーターによる分野別蔵書比率の分析と、改善計画案（選書リスト）を提示するとともに、学校からの申請に応じて必要な図書購入予算を措置した。

●学校図書館補助員・コーディネーター等の配置

【概要】学校図書館の開館回数を増やすとともに児童生徒の読書活動を推進する魅力ある学校図書館づくりを行うため、学校図書館補助員を配置（市立小中学校全校に原則週1回・6時間）するとともに、補助員の支援体制として、学校図書館補助員チーフコーディネーター・同コーディネーターを市立図書館に配置。

- ・学校図書館の週当たり開館回数（※）が、事業開始前と平成30年度（7月時点）を比較し、小学校で平均4.5回→8.6回、中学校で平均5.5回→8.1回と増加している。

※小学校：始業前、2時間目後の業間休み、昼休み、放課後の1日4回、週20回のうち

中学校：始業前、昼休み、放課後の1日3回、週15回のうち

- ・教職員・区職員を対象とした「学校図書館活用推進事業事例報告会」を開催（平成31年1月9日・10日）。
- ・学校図書館補助員全員を対象とした研修会を年3回開催。また、各区で補助員研修・情報交換会を開催。

●まとめ

- ・学校図書館補助員の配置以降、図書の分類別配架の徹底や掲示物・案内表示の充実、図書展示の実施など、学校図書館の環境整備が進み、使いやすく親しみのある場となりつつある。読み聞かせやビブリオバトルなども、多くの学校で活発に取り組まれている。
- ・調べ学習など、授業での学校図書館活用について、さらなる活性化が必要である。
- ・「大阪市教育振興基本計画（平成29年3月改訂）」において、平成32年度までの学校図書館補助員・コーディネーター等の配置継続を示している。

区における子どもの読書活動の取組みについて(29年度実績および30年度取組み状況調査) 《資料5》
(平成30年12月時点)

区名	種類	事業名	取組内容	事業実施年度(実施:○)				事業対象(主たる対象者:○)			29年度目標	29年度取組実績	30年度取組状況	各区役所担当部署		
				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	乳幼児	小学生					中学生以上未成年	保護者等成人
北区	読み聞かせ	子育て支援ルーム絵本読み聞かせ	子育て支援ルーム「Kikki(キッキ)」において、「絵本の会北」による絵本の読み聞かせ	○	○	○	○	○				○	毎年絵本を図書館から借り受け、絵本の普及活動を実施	継続	福祉課(子育て支援室)	
北区	読み聞かせ	子どもたちと考える平和展	・映像資料の上映 ・パネル展示 ・資料展示(北区遺族会より借用) ・戦争、平和に関する絵本の展示、読み聞かせ(絵本の会北)					○	○	○	○		○	変更	平成30年度の取組みは ・映像資料の上映 ・パネル展示 ・戦争、平和に関する絵本の展示、読み聞かせ(絵本の会北) ・漫画家ビッグ錠先生による、戦争に関する紙芝居「風のゴタ」の実演 政策推進課連携推進担当	
都島区	学図支援	(区広報での学校図書館支援ボランティア募集)	区の広報で学校図書館支援ボランティア募集記事掲載									○	取組み内容の実施	○	平成29年度2回実施 継続	保健福祉課(子ども教育)
福島区	えほんひろば	絵本ひろば(フツピキッズルーム事業)	年1回開催。500冊以上の絵本や写真集等の展示。また乳幼児向けの絵本棚、机や椅子、自動車、かまくら等のダンボールアート作品の展示や体験もあり。親子でいろいろな本に出会い、お気に入りの場所を見つけ、ゆっくり楽しんでもらう。絵本研究者加藤啓子氏の絵本講座も開催。					○	○	○		○	・子どももおとなも楽しめる絵本や写真集を500冊以上揃え、様々なダンボールアートが配置された空間で、読んで、遊んで、寛いで、親子でゆっくりゆっくり、いろいろなスタイルで絵本に親しむ。 ・絵本講座に参加し、親子で絵本の読み聞かせを楽しんだり、いろいろな絵本に出会い、それぞれの絵本の世界を楽しむ。	○	継続	保健福祉課(子育て支援室)
福島区	読み聞かせ	子育て講座2歳児の広場	年9回開催。各回2歳児の親子20組の参加。広場会場に絵本紹介コーナーを設置し、季節や行事の絵本を展示。講座内で支援室保育士が絵本の読み聞かせを実施。	○	○	○	○	○				○	・自分で絵本を見たり、親子で絵本を読んだりして、親子の関わりを楽しみながら絵本に親しむ。 ・親子で絵本や紙芝居の読み聞かせを楽しむ。	○	継続	保健福祉課(子育て支援室)
福島区	えほんひろば	子育て講座赤ちゃん広場	月1回開催。毎回0歳児の親子が70組~100組参加。広場会場に手作りおもちゃコーナーと共に絵本コーナーを設置し、赤ちゃん向け及びお母さん向け、季節の絵本などを展示する。区内保育所保育園の保育士や図書館司書が絵本の読み聞かせを実施。	○	○	○	○	○				○	・絵本の読み聞かせを聞いたり、展示された絵本を手にとることで、保護者自身が絵本を楽しみ、興味を持つ。 ・区の図書館実施の絵本の広場や、図書館の利用方法を知る。	○	継続	保健福祉課(子育て支援室)
福島区	読書マップ	ふくしま子育て支援情報紙フツピキッズ絵本に出会える場所特集号発行	区内の絵本に出会える場所の取り組みをマップで紹介。図書館や絵本ボランティア、ブックスタート等も紹介。									○	○	○	新規	保健福祉課(子育て支援室)

区における子どもの読書活動の取組みについて(29年度実績および30年度取組み状況調査) 《資料5》
(平成30年12月時点)

区名	種類	事業名	取組内容	事業実施年度(実施:○)				事業対象(主たる対象者:○)			29年度目標	29年度取組実績	30年度取組状況	各区役所担当部署	
				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	乳幼児	小学生					中学生以上未成年
此花区	えほんひろば	えほんのひろばによついで!	500冊以上の絵本の展示と読み聞かせ	○	○	○	○	○	○	○	年齢に関わらず自分で読んだり読んでもらったりして絵本の世界に触れ絵本を楽しむ。	○ 年々参加者も増え絵本を楽しんでもらえている	継続	保健福祉課(子育て支援グループ)	
此花区	読み聞かせ	このはなポックらぶ	年に2回、生後10か月までの乳児とその保護者に対して、数冊絵本の読み聞かせ					○	○	○	母親とのコミュニケーションによる精神的安定と、親子の絆を深めるため。	○ 参加者が乳児と一緒に読み聞かせを楽しんでいる	継続	保健福祉課(保健活動グループ)	
中央区	読書マップ	中央区まちじゅう図書館構想	中央区内には多くの「まちライブラリー」やブックカフェ等が点在しており、民間図書館の取組みをマップにより紹介、区民が本に親しみ、人と出会い交流する場を拡げていく。					○	○	○	①「中央区まちじゅう図書館マップ」作成(28年度) ②参加施設の交流会開催(28・29年度) ③「中央区まちじゅう図書館マップ」掲載情報更新(30年3月)	○	継続	情報更新した「中央区まちじゅう図書館マップ」の広報・配布 市民協働課(市民活動支援)	
西区	読み聞かせ他	西区ブランド力向上事業「えほんpicnic」	えほんpicnic実行委員会と共に、地域資源となる鞆公園を活用し、「都心の中で自然とふれあう」「人とふれあう」ためのきっかけづくりを目的に、絵本の貸出や読み聞かせ、ワークショップ、マルシェ出店などを実施	○	○	○	○	○	○	○	イベントを実施することで、西区の魅力向上につながると感じる参加者の割合:80%以上	○ 平成29年度:93%	継続	平成30年度より事業名称が「多様な活動主体のネットワークづくり事業『えほんpicnic』」に変更しています。	きずなづくり課
西区	えほんひろば	食育なつまつり	展示コーナーでは食に関する絵本を展示し、自由に読むスペースを設置。「たべものシアター」ではボランティアによる食に関する絵本の読み聞かせやパネルシアターを実施。	○	○	○	○	○	○	○	健全な食生活を確立するため、乳幼児や小学生とその保護者を対象とした取組を行い、西区における食育の推進・普及啓発をする	○	継続	保健福祉課	
港区	えほんひろば	絵本による読書活動促進スタートアップ事業(絵本ひろば)	絵本ひろばのコーディネーターやファンリテーターの講師謝礼等を区役所が負担し、学校や地域の団体等が区内の公共施設等で「絵本ひろば」を開催できるように支援し、子どもの主体的な読書活動を促進	○	○	○	○	○	○	○	学校で絵本ひろばを開催し、子どもの主体的な読書活動を促進	○	継続	区役所としては、開催施設への絵本の貸出冊数はとくに把握はしていないが、開催希望をみるとほぼ目標を達成していると考えている。	協働まちづくり推進課(教育・人権啓発グループ)
港区	学図支援	(区広報での学校図書館ボランティア募集)	区の広報紙、ホームページやチラシの配架により、学校図書館支援ボランティアを募集	○	○	○	○				区広報での学校図書館ボランティア募集	○	継続	協働まちづくり推進課(教育・人権啓発グループ)	

区における子どもの読書活動の取組みについて(29年度実績および30年度取組み状況調査) 《資料5》
(平成30年12月時点)

区名	種類	事業名	取組内容	事業実施年度 (実施:○)				事業対象 (主たる対象者:○)			29年度目標	29年度取組実績	30年度取組状況	各区役所 担当部署			
				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	乳幼児	小学生					中学生以上 未成年	保護者等 成人	
大正区	えほんひろば	子育てネットひろばin大正	区役所と区内の子育て関連施設とで構成される子育て支援ネットワーク連絡会により開催。子育てコンシェルジュによる子育て支援施設・制度の案内や、保育所・幼稚園一斉受付についての説明。図書館からの絵本展示。読み聞かせ実施。				○	○	○		○	参加されていた親子は、読み聞かせや絵本を通して親子のかかわりを楽しんでいた。	継続	H30年度は事業名の名称変更をし、「子育て応援フェア」として実施。	子育て支援ネットワーク連絡会 (保健福祉課子育て支援室)		
大正区	読み聞かせ	大正区親子のつどい	主任児童委員会で、地域の子育てサークルの紹介を兼ねて、遊びやゲーム、舞台発表をする。絵本の会大正が読み聞かせ等を20分×2回実施。	○							○	参加されていた親子は、読み聞かせや絵本を通して親子のかかわりを楽しんでいた。	継続		保健福祉課		
天王寺区	読み聞かせ	子育て支援事業	「あそびましょ〜」の中で絵本・紙芝居・パネルシアターなどの読み聞かせの時間を10分くらい組み込んでいる。				○	○	○		○	絵本や紙芝居などを親子でいっしょに楽しむ	継続	毎回10組くらいの親子の参加があり、楽しんでもらっている。	保健福祉課 子育て支援室		
浪速区	読み聞かせ	地域子育てサポートネットワーク事業 子育てサロン	子育てサロンの内容充実をはかる。遊びの提供・絵本の読み聞かせを実施。	○	○	○	○	○	○		○	子育てサロン利用者年間500組	継続		保健福祉課		
浪速区	えほんひろば	浪速区親子フェスタ	区役所と区内の子育て関連施設とで構成される子育て支援ネットワーク会議(通称:なにわっ子ネット)により開催。図書館ボランティアグループの出演による5月の「親子フェスタ人形劇」(人形劇・絵本展・ふれあい遊び)、地域ボランティア団体が参加する8月「親子サマーフェスタ」(おもちゃ作り・ゲーム・あそび・絵本展・絵本読み聞かせ等)と、1月「親子えほんフェスタ」(絵本展・読み聞かせ等)の年3回。	○	○	○	○	○	○		○	・子育て中の親同士の交流の促進 ・子育てへの負担緩和	○	アンケート実施により満足度を調査。達成していると考えている。	変更	平成30年度5月の「親子フェスタ」は「音楽会」を実施。8月の「サマーフェスタ」1月の「えほんフェスタ」は前年度同様実施。	子育て支援ネットワーク会議 (保健福祉課子育て支援室)
西淀川区	地域の図書スペース	図書に親しみ多世代が交流する環境作り事業	児童生徒の教育水準の向上や若者から高齢者まで世代を超えた生涯学習を推進していく上で、身近な場所に手軽に図書に親しむ又は自習を行えるような環境を整備していくために、本区では平成25年度末から2か所(姫里地域・佃地域)に「に〜よん文庫」という図書・自習スペースを設けている。に〜よん文庫はボランティアによる運営を行っており、平成27年度からさらに1か所(川北地域)が開設している。	○	○	○	○	○	○		○	「に〜よん文庫」及び図書イベント等を通じ、図書に関心を持った区民の割合の前年度増	○		継続	地域支援課(地域支援)	
西淀川区	えほんひろば	えほん展ふわふわ	年1回2日間開催している。当初西淀川区民会館が会場であったが、近年は西淀川区役所を会場としている。1000冊以上の絵本展示、各コーナーでのボランティアによる読み聞かせやイベントを行う。各子育て支援関連施設、ボランティアの方々、図書館などが協力して実施している。	○	○	○	○	○	○		○	・乳幼児世帯、児童に対する読書活動啓発推進 ・地域社会で孤立しがちな乳幼児、児童世帯に対する子育て支援サービスや支援機関、サロン、サークル等総合的な情報提供 ・子育て支援ボランティアの発掘と育成、子育て支援関係機関の区民周知	○	毎年600人を超える参加者があり、絵本の楽しさと共に子育てに関する情報も浸透しつつある。	継続	保健福祉課(福祉)	

区における子どもの読書活動の取組みについて(29年度実績および30年度取組み状況調査) 《資料5》
(平成30年12月時点)

区名	種類	事業名	取組内容	事業実施年度 (実施:○)				事業対象 (主たる対象者:○)			29年度目標	29年度取組実績	30年度取組状況	各区役所 担当部署	
				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	乳幼児	小学生					中学生以上 未成年
淀川区	読み聞かせ	母親教室(妊婦教室)	1コース3回のうち参加者の交流の回次に、読み聞かせの時間を設ける。	○	○	○	○				○	年4回	○ 29年度は4回実施(100%)	継続	保健福祉課(健康相談)
淀川区	読み聞かせ他	生涯学習推進事業「ものがたりのちから」	絵本の読み語りのプログラムや絵本コーナーを設置するなどし、絵本の魅力、区の自然や歴史、世代間で伝えたいことを、さまざまな形の「ものがたり」として子ども達に伝えていくことを目的にしたイベントを実施する。	○	○	○	○	○	○	○	○	アンケートにおいて、「暮らしや地域での活動に活かせる」との回答70%以上	○	継続	市民協働課
淀川区	学図支援	はぐくみ文庫の設置	小学校の読書活動を支援し、図書の充実を図り、読書習慣の形成を推進することで、小学生の学力向上をめざすため、各小学校へ図書及び図書館管理用パソコン等を設置する。	○	○	○				○		平成25～27年度の3年間で、区内全17小学校を対象に実施	○	変更	市民協働課
淀川区	ボランティア支援	生涯学習推進事業「読書ボランティア講座」	区内小中学校を拠点に活動する読書ボランティアの新たな担い手発掘を目的として、読書と子どもの関わりに興味のある区民を対象に読書ボランティア活動の研修を行い、また既に活動中の読書ボランティアを対象に学校の図書室で活動するために役立つ知識や技術を身につけるための研修を行うことにより区における子ども達の読書環境の充実につなげる。			○	○	○			○	アンケートにおいて、「暮らしや地域での活動に活かせる」との回答70%以上	○	継続	市民協働課
東淀川区	ブックスタート充実	ブックスタート事業	平成25年11月より当区で絵本を選定し、3種類から養育者の希望する絵本を配布するとともに、実施場所も7施設に増やした。	○	○	○	○	○			○	区での絵本選定、ブックスタート実施場所7施設	○	継続	保健福祉課
東淀川区	読み聞かせ他	絵本読み聞かせ事業	家庭での絵本読み聞かせ習慣の定着を促進するため「笑顔いっぱい 絵本いっぱい」の東淀川」を合言葉に次のとおり取り組みを行っている。 ・登録ボランティアによる1歳6か月児・3歳児健診時の絵本読み聞かせ(ボランティアバンク) ・区民からの寄贈絵本の募集(絵本バンク) ・区役所、出張所庁舎内に来庁者用の絵本コーナーを設置 ・活動の集大成となるイベント「東淀川えほんまつり」の開催(年1回) ・絵本や読み聞かせの楽しさを伝える内容のリーフレット作成(年1回) ・区内保育施設等と連携したさぶとん読み活動の普及及び大学と連携した効果検証の実施、等	○	○	○	○	○	○	○	○	家庭での読み聞かせ習慣の定着を促進し、良好な親子関係の構築を促す。	○	継続	保健福祉課(子育て・教育グループ)

区における子どもの読書活動の取組みについて(29年度実績および30年度取組み状況調査) 《資料5》
(平成30年12月時点)

区名	種類	事業名	取組内容	事業実施年度(実施:○)				事業対象(主たる対象者:○)			29年度目標	29年度取組実績	30年度取組状況	各区役所担当部署	
				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	乳幼児	小学生					保護者等成人
東成区	読み聞かせ	子育てネットワーク構築支援事業「子育て応援隊さんぽぽぽ」	子育て中の保護者が子どもと一緒に楽しみながら各子育てサークルや子育てイベントで遊びを提供するボランティア活動(パネルシアター、大型絵本読み聞かせ、手遊び等)			○	○	○	○		○	年間11回(11校下の子育てサークル訪問、年間4回(子育て支援イベント時))	継続 子育てサークル訪問10回(子育てサークルの都合による)イベント開催時2回(イベントが中止になった為)。	保健福祉課	
東成区	えほんひろば	東成区子育てふれあいサークル大集合	区民ホールでの乳幼児と保護者、マタニティ世代向けのイベント。図書館のブースとして絵本コーナーを設けている。	○	○	○	○	○	○		○	地域の子育てサークルや子育て支援施設の周知。子育て中やこれから親になる人同士の交流の促進	継続 平成30年6月22日開催予定であったが6月18日に起こった大阪府北部地震の余震の影響を考慮し、イベントを中止した。	保健福祉課	
東成区	えほんひろば	ひがしなりっすくすく・つながるランド	各子育て機関等の紹介、区内幼稚園・保育園の5歳児によるうたの発表、親子ふれあい遊びなど。図書館のブースとして絵本コーナーを設けている。	○	○	○	○	○	○		○	①地域の子どもの未来を考え、未就園児の保護者に乳幼児期の大切さを意識してもらう機会にする。 ②未就園児の子どもたちに遊びを提供し、家庭での遊びのヒントにしてもらう。 ③子育て支援機関や地域全体で子育てを応援していることをしてもらう。	継続 開催場所である東成区民センターが工事の為、イベントを実施しなかった。また、31年度以降はイベント自体を実施しない。	保健福祉課	
生野区	読み聞かせ・その他	生きる力を育む絵本プロジェクト	・3か月健診時のブックスタート事業の紹介 ・「にこにこいくのっこだより」での絵本紹介 ・絵本イベント(H30年9月22日開催) ・絵本ボランティアの養成 ・キッズルーム(授乳室あり)の環境整備 ・絵本ボランティアによる3か月及び1歳6ヶ月健診時の絵本の読み聞かせ ・区役所庁舎各階窓口待合に来庁者用の絵本棚を設置								○	・絵本ボランティア養成 (10人以上) ・ボランティアの活動場所としての事業やイベントの構築1つ以上 ・区役所の各窓口で待ち時間を活用した子供向け絵本が読める環境づくりにより絵本の普及を図る。 ・3ヶ月健診後に希望者にブックスタート事業を実施し早期の絵本の普及と親子の読み聞かせ習慣の定着を図る。	継続	保健福祉課	
生野区	学図支援	学校支援ボランティア人材バンク事業	学校支援ボランティアの募集・研修の支援等								○	募集・研修支援の実施	継続	地域まちづくり課	
旭区	絵本展示	保健福祉課のキッズコーナー	窓口での待ち時間に子どもさんが過ごせるキッズコーナーを2階に設けているが、季節に応じて絵本を入れ替える等して親子で絵本に親しみ楽しんでもらっている。	○	○	○	○	○	○		○	取組み内容の実施	継続	保健福祉課	
旭区	えほんひろば	あさひあつたかきち(旭区民センター内)をベースとした絵本普及事業	マット・絵本架を設置し、子育て世代がゆったりと絵本を楽しめるようにする。								○	○	8月から毎週30冊絵本を図書館から借り受け、展示。9月29日には「ミニ絵本展」を開催し、絵本70冊・大型絵本などを借り、絵本の普及活動を実施。	中止 H30.7月末にあさひあつたかきちの事業が廃止された。	保健福祉課

区における子どもの読書活動の取組みについて(29年度実績および30年度取組み状況調査) 《資料5》
(平成30年12月時点)

区名	種類	事業名	取組内容	事業実施年度(実施:○)				事業対象(主たる対象者:○)			29年度目標	29年度取組実績	30年度取組状況	各区役所担当部署				
				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	乳幼児	小学生					中学生以上未成年	保護者等成人		
旭区	ブックスタート充実	ブックスタート事業	区内のブックスタート拠点のなかった地域への拠点の設置、ブックスタートの実施								○	○	○	城北地域(赤川幼稚園)で年4回ブックスタートを実施。来年度以降も同回数で実施。	継続	保健福祉課		
旭区	えほんひろば	子育て支援事業	イベント開催時に旭図書館の協力で絵本コーナー(絵本展示・読み聞かせなど)を設置する。												「わいわい広場(区内子育て支援施設合同おまつり)」や、「幼・保情報フェア」開催時に実施	新規	保健福祉課	
城東区	えほんひろば・その他	絵本で子育てみんな子育て事業	・図書館、子育て支援施設と連携した、絵本の読み聞かせ会や絵本展の開催 11月を「絵本読み聞かせ月間」として図書館、子育て支援施設、子育てサロンなど地域の子育て支援施設と連携し絵本の読み聞かせなど絵本に関する取組を実施 ・区役所ロビーでの絵本展の開催 ・大人向けの絵本のお話と読み聞かせ会を開催 ・絵本スポット 子育て中のママやパパが絵本をきっかけに子どもと一緒に楽しみ、先輩ママ・パパに身近な相談ができる場、気軽に立ち寄れる場所として、区内事業所・飲食施設等に絵本を設置												事業を行う際には区広報や区の子育て情報誌に大きくとりあげ周知している。また各施設には「絵本で子育てみんな子育て」ののぼりを設置しており、広報効果と毎年の取組の積み重ねにより、事業は広がり、浸透してきている。	継続	保健福祉課(子育て教育)	
鶴見区	読み聞かせ	「つるみっ子ルーム」での読み聞かせ	区役所内「つるみっ子ルーム」で保育士による月1回の「おたのしみ会」(絵本の読み聞かせ等)を開催。												絵本の読み聞かせや親子のふれあい遊び等を通して、親子の関わり方をしらせる。	○	継続	保健福祉課(子育て支援室)
鶴見区	絵本展示	「つるみっ子ルーム」への絵本の借受け	鶴見図書館から、月1回30冊の絵本をお借りし、区役所内「つるみっ子ルーム」に配架。												多くの絵本を配架することで、身近に絵本にふれていただき、親子の関わりを密にさせていただく。	-	新規	保健福祉課(子育て支援室)
阿倍野区	えほんひろば	親子フェスタ	親子フェスタのイベント会場内に、「絵本コーナー」の部屋を設けて、複数のボランティアグループによる絵本読み聞かせミニ絵本展(内容は図書館が適宜選定)を実施												取組み内容の実施	○	継続	阿倍野区子育て支援連絡会
阿倍野区	絵本展示	あべの食育祭	あべの食育祭のイベント会場内に「絵本コーナー」を設けて、『食育』に関する絵本の展示や読み聞かせを実施												図書館が選定した絵本の展示やリストの配布、読み聞かせを通して普及活動を実施	○	継続	食育祭・保健福祉課(地域保健担当)・絵本コーナー・保健福祉課(子育て支援担当)

区における子どもの読書活動の取組みについて(29年度実績および30年度取組み状況調査) 《資料5》
(平成30年12月時点)

区名	種類	事業名	取組内容	事業実施年度(実施:○)				事業対象(主たる対象者:○)			29年度目標	29年度取組実績	30年度取組状況	各区役所担当部署			
				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	乳幼児	小学生					中学生以上未成年	保護者等成人	
阿倍野区	学図支援	学校支援ボランティア人材募集	区の広報で学校図書館支援ボランティアも対象に含まれる学校支援ボランティア人材募集にかかる募集記事掲載								○	区広報での学校図書館支援ボランティア募集	○	広報あべの平成29.7月号記事掲載、阿倍野区ホームページ掲載、区内広報板掲出等	継続	総合企画課総合企画担当	
住之江区	読み聞かせ	あいあい相愛おはなしのへや	「咲洲ウェルネスタウン計画」に掲げた南港ポートタウンの魅力向上の取組みの一つ。住之江区と包括連携協定を締結している相愛大学(子ども発達学科)との協働プロジェクト。おはなし隊(相愛大学学生)による様々な形(劇や紙芝居、エプロンシアター等)での絵本の読み聞かせ。				○	○	○			○	子育て層の地域住民が図書等に親しみ、気軽に交流できる環境の創出	○	平成28年3月より月1回程度開催し、子育て世帯へ絵本等の読み聞かせを実施	継続	総務課(企画)
住吉区	学図支援	市立小学校学校図書館活性化事業(司書資格者の派遣)	区内小学校のうちモデル校3校(平成27・28年度は2校)に週2回、図書館司書を派遣し、読み聞かせや調べ学習などの図書授業を行っている。モデル校以外の希望する学校にも出張授業を行っている。					○	○	○	○	○	派遣校で、導入後のアンケートにおいて「読書が好きである」と回答した児童の割合80%以上	○	平成29年度81.4%	継続	教育文化課
東住吉区	学図支援	学校支援ボランティア人材バンク	学校図書館開放にかかる支援等、サポーターとして学校で活動いただける方の登録制度									○	学校の多様な活動希望条件に対応できるように人材確保	○	随時募集し、学校へ周知	継続	区民企画課
東住吉区	えほんひろば	子育てOHえんフェスタ	区民ホールでの乳幼児向けのイベント。図書館のブースとして絵本コーナーを設けている。	○	○	○	○	○	○			○	取組み内容の実施	○		継続	保健福祉子育て支援室
東住吉区	えほんひろば	保健福祉課のキッズコーナー	窓口での待ち時間に子どもさんが過ごせるキッズコーナーを設けていて、そこに図書館から貸し出しを受けている絵本や保護者向けの育児書を展示し手にとって見たり、読みみかせをしたりして絵本に親しみ楽しんでもらっている。									○	取組み内容の実施	○		継続	保健福祉子育て支援室
東住吉区	学図支援	(区広報誌等での学校図書館支援ボランティア募集)	区広報誌などで11月号・区ホームページに学校図書館支援ボランティア募集記事を掲載。また、地域での学校図書館支援ボランティア募集ちらしの回覧を依頼。									○	取組み内容の実施	-		新規	区民企画課
平野区	読み聞かせ	平野区子ども学力サポート事業	児童の学習支援と居場所づくりのために、教員をめざす大学生を中心に(地域のボランティアも含む)小学校へ派遣し、学習習慣の定着をはじめ、子どもたちに「生きる力」を身につけてもらえるよう支援する。支援内容は各学校が求めにより異なり、「読み聞かせ」や学校図書館への支援の事例もある。	○	○	○	○	○				○	参加児童のうち「以前より学ぶことが楽しい」と感じる児童の割合70%以上	○	平成29年度85.6%	継続	政策推進課

区における子どもの読書活動の取組みについて(29年度実績および30年度取組み状況調査) 《資料5》
(平成30年12月時点)

区名	種類	事業名	取組内容	事業実施年度 (実施:○)				事業対象 (主たる対象者:○)			29年度目標	29年度取組実績	30年度取組状況	各区役所 担当部署
				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	乳幼児	小学生				
平野区	読書ノート等	平野区読書習慣の定着事業 『平野区こどもたちの「生きる力」育成プロジェクト+10(プラステン)』の「こどもの学習意欲(モチベーション)の向上」の取り組みと重なっている。	読んだ本のタイトルを記録できる「ひらちゃん読書ノート」(1~4年生向けと5・6年生向け)を作成し、1~4年生は100冊以上、5・6年生は3000ページ以上を読んだ児童には、区から表彰する。平成30年度の小学生の表彰者数は約2,200人で、全小学生の約25%。					○	○		他の学習意欲の向上の取り組みとの関連目標では「授業時間以外で宿題や読書をするようになった」割合50%以上	○ 平成29年度90.9% (平野区内小学校22校中20校が読書量が増えたとの回答)	変更 小学生用に加え、新たに中学生用と3~5歳児用を作成。	政策推進課
平野区	その他	ひらちゃん図書自由貸出し	区役所で募集を行い、寄附された図書を、返却期限・貸出し手続きなしで区民に貸し出しを行う。				○	○	○	○	読書に親しむ区民を増やす。また、経済的に本の購入が難しい家庭にも読書に親しんでいただく。(平野区教育会議委員からの発案)	○ 図書の寄附約2,600冊	継続	政策推進課
平野区	えほんひろば	平野区えほん展	展示された絵本を自由に手に取って読めるイベントを、図書館から遠い地域で、複数個所で開催。平野図書館との共催事業で、絵本の読み聞かせなども行う。	○	○	○	○	○	○		多くの絵本に触れることで、読書の楽しさを区民に知っていただく。	○ 毎年2カ所で開催	継続	政策推進課
西成区	読書ノート等	西成区こどもの読書活動推進支援事業	読書活動を行うきっかけづくりとして、読書カードを全児童生徒に配付する。 対象者が4月1日~翌年1月31日までに読了する目標冊数を設定。 目標読了冊数 小学校1年・2年 100冊 小学校3年・4年 70冊 小学校5年・6年 50冊 中学校1年~3年 50冊 通年実施のうえ、年度末に年間の読了冊数に応じて賞状を贈呈する。 ・年間目標を達成した児童生徒に賞状授与 ・区分ごとに読了冊数が最多の者に表彰状及び記念品授与 なお、対象となる本は、学校図書館・西成図書館・移動図書館で貸出されているものを基本とする。					○	○	○	目標冊数を達成する児童生徒が、全児童生徒数の5%を超える。	○ 平成29年度に目標冊数を達成した児童生徒は、全児童生徒数の8.29%	継続 【平成30年度年間スケジュール】 平成30年4月 読書カード配付 平成31年2月 読書数集計 3月 目標達成者へ賞状授与 4月 最多読書賞授賞式	保健福祉課(子育て支援)

大阪市子どもの読書活動推進連絡会設置要綱

(設置)

第1条 「大阪市子ども読書活動推進計画」(平成18年3月策定)に基づき、本市のすべての子どもたちが、さまざまな機会と場所において読書の喜びを味わい、読書を通して生きる力を身につけていくことができるよう、各区で行う子どもの読書支援活動の連携を進めるため「大阪市子どもの読書活動推進連絡会」(以下「推進連絡会」という)を設置する。

2 各区において学校や図書館その他の関係機関及び民間団体・グループが、それぞれの課題を理解しながら協力して取り組み、子どもの読書活動を推進するため、各区に「区子どもの読書活動推進連絡会」(以下「区の推進連絡会」という)を設置する。

(所掌事務)

第2条 「推進連絡会」は、次の各号に掲げる事項について協議を行う。

- (1) 区の「区の推進連絡会」での協議の集約に関すること。
- (2) 子ども読書の日(4月23日)記念事業他関係団体等が行う読書支援活動の状況把握に関すること。
- (3) 子どもの読書支援活動を推進するための広報啓発事業に関すること。
- (4) その他、子どもの読書支援活動推進のために必要な事項に関すること。

2 「区の推進連絡会」は、次の各号に掲げる事項について協議を行う。

- (1) 地域における子どもの読書支援活動に関する情報発信に関すること。
- (2) 施設間、団体間の情報交換や他の区の子どもの読書支援活動の紹介・交流に関すること。
- (3) 学校図書館支援モデル事業の進捗状況の報告に関すること。
- (4) 学校における子どもの読書支援活動についての情報の共有化に関すること。
- (5) 子ども対象の読みきかせやおはなし会、子どもの読書支援活動に関する講座の開催に関すること。
- (6) その他、区における子どもの読書支援活動推進のために必要な事項に関すること。

(構成)

第3条 「推進連絡会」は、別表に掲げる団体等の代表者(推薦された者)により構成する。

2 「区の推進連絡会」は、各区内の図書館、学校、幼稚園、保育所、区役所、保健福祉センター、子ども・子育てプラザ、子育てサロンなど、子どもの読書活動に関わる関係機関の職員および読書支援活動グループ等の代表者の参加により、開催する。

(座長)

第4条 「推進連絡会」に、座長を置く。

2 座長は、「推進連絡会」の構成員の互選により選出する。

(「区の推進連絡会」の代表者)

第5条 各「区の推進連絡会」に、代表者を置く。

2 代表者は、各「区の推進連絡会」の構成員の互選により選出する。

(事務局)

第5条 「推進連絡会」の事務局は大阪市立中央図書館利用サービス担当に置く。

2 各「区の推進連絡会」の事務局は各区の大阪市立図書館に置く。

(会議)

第6条 「推進連絡会」は、事務局が構成員を招集して開催する。

2 各「区の推進連絡会」は、事務局が構成員を招集して開催する。

(施行の細則)

第7条 この要綱の施行について必要な事項は、事務局が定める。

附則 この要綱は平成19年 7月 17日から施行する。

(別表)

大阪市子どもの読書活動推進連絡会の構成

順不同

- ・ 各区の「子どもの読書活動推進連絡会」代表者
- ・ 大阪市PTA協議会
- ・ 大阪市生涯学習推進員協議会
- ・ 大阪市教育委員会事務局 生涯学習部
- ・ 大阪市教育委員会事務局 指導部
- ・ 大阪市立図書館
- ・ 学識経験者

「大阪市子どもの読書活動推進連絡会」の今後のあり方について

1-2) 本案の目的

「大阪市子どもの読書活動推進連絡会」のあり方を整備することにより、大阪市の子どもの読書活動について一層の推進を図る。

1-2) 本案の構成

- 1) 本案の目的、構成
- 2) 問題意識、目指すべき姿
- 3) 現状の把握、課題設定
- 4) 改善提案の概要、スケジュール・検討体制等
- 5) まとめ

2-1) 問題意識

- ① 「大阪市子どもの読書活動推進連絡会」について、発足から10年を経過した。「第3次大阪市子ども読書活動推進計画」（以降第3次計画）策定の機会に合わせ、この間の大阪市における情勢の変化の中で、要綱における本来の目的を果たしているか、検証が必要。
- ② 特に各区連絡会については、区における分権型教育行政への移行において、変化に対応できているかという視点からの検証が必要。

2-2) 目指すべき姿

- ① 「大阪市子どもの読書活動推進連絡会」が、各区の子どもの読書支援活動の連携を進めることにより、全市の子どもの読書活動を推進する中心的役割を果たしている。
- ② 各区連絡会は、各区の読書活動に関わるメンバーがそれぞれの課題等を適切に情報共有し、協力して取り組むしくみとなっており、区の読書活動を推進する中心的役割を果たしている。

3-1) 現状の把握

- ① 「大阪市子どもの読書活動推進連絡会」全市版（以降全市連絡会）

【出席者】

学識経験者、社会教育関係団体（PTA協議会、生涯学習推進員協議会）各区連絡会代表
（事務局）生涯学習部、指導部、図書館

【内容】

- ・ 子ども読書活動の推進事業の実施状況報告
（「大阪市子ども読書活動推進計画」（以降「計画」）の策定後の状況、生涯学習部・図書館の活動報告、区の連絡会の報告、学校図書館の報告）
- ・ 実践事例報告（29年度は「第3次計画」の素案に関する意見交換）
- ・ 意見交換

② 各区の子どもの読書活動連絡会

【出席者】

区役所（子育て支援担当、保健福祉担当、教育担当、生涯学習担当、地域活動担当等）、子育て支援施設、小中学校（教員・学校図書館コーディネーター等）、幼稚園・保育所等就学前施設、読書活動支援ボランティア、学校図書館ボランティア、主任児童委員など

（事務局）図書館

【内容】

- ・代表の決定
- ・子ども読書活動の推進事業の実施状況報告
- ・実践事例報告
- ・意見交換

3-2) 問題の抽出

①全市連絡会

- ・全市の子どもの読書活動を推進し、連携をしていくためには、子どもの読書活動に携わる関係部局からの出席が必要ではないか。（現状は生涯学習部担当、指導部が出席）
- ・「大阪市子ども読書活動推進計画」について、関係部局の具体的取組みの進捗状況を集約することが必要ではないか。
- ・現場での活動にあたっての課題解決に向けて、より様々な立場から事例報告をしてもらうのがよいのでは。（例）区役所による読書活動、地域の民間グループの読書活動。

②各区連絡会

- ・より有効な情報共有の場にしていくためには、区で読書支援活動にかかわる（可能性のある）担当からの出席が必要ではないか。
- ・3月の実施が多いが取組を推進するには、年度の早い時期に実施する必要があるのではないか。

3-3) 課題の設定

①全市連絡会

要綱における本来の目的を確認し、各区の子どもの読書支援活動の連携を具体的に進めて、全市の子どもの読書活動を推進する中心的役割を一層果たせるように、子どもの読書活動に関わる人々による、より幅広い情報交換の場とする。

- ・「子ども読書活動推進計画」の進捗状況報告について、区による読書活動や具体的取組みの進捗状況も集約する。
- ・子ども青少年局からも代表の出席をいただく。
- ・区連絡会での報告を集約し、抽出した課題について、民間や区、学校図書館コーディネーターなど様々な立場から、課題解決のための事例報告をしていただく。

②各区連絡会

各区の読書活動に関わるメンバーがそれぞれの課題等を適切に情報共有し、協力して取り組める

しくみづくりをする。

- ・区役所からの出席者について、関係担当にはできるだけ出席いただく。
教育担当、子育て支援担当には必ず出席依頼する。そのほか、区の状況に応じて関係する担当に依頼する。
- ・その他の施設職員、学校関係者についても、出席依頼の原則を設定する。
小・中学校については、図書館担当の校長先生などキーパーソンには必ず依頼をする。この連絡会を、各区の学校における子どもの読書活動の主たる報告の場としていく。
- ・関係図書や新刊絵本、行事用大型絵本の紹介、読書関係グッズの紹介や、実践事例の紹介など、情報交換方法の工夫を行う。
- ・実施時期を年度当初の5・6月ごろとし、子ども読書活動に関わる担当者が集まり、昨年度の振り返りと、当年度の目標を確認しあう場とする。
- ・より多くの出席をいただくために、幹事校長会など関係担当者の会議で事務局から周知をしていく。

4-1) 改善計画の概要

- ①本案を元に課題の再整理および検討⇒方向性の決定
- ②具体的な実施案を作成⇒修正案を作成し再度提案⇒承認⇒要綱修正の場合は決裁
- ③連絡会構成員への周知、案に基づいた区連絡会、全市連絡会の実施

4-2) スケジュール、推進体制

【30年度】

(8～10月)

- ・図書館内での調整の上、あり方検討案（以降本案）の作成
(11月～31年1月)
- ・案について、関係担当へ打診
- ・事務局に修正案を提案、修正
- ・12月5日区長会こども・教育部会で報告
(～3月)
- ・要綱改訂案作成、決裁
- ・30年度各区連絡会の実施
- ・全市連絡会構成員への「29年度大阪市立図書館子ども読書活動推進関係事業まとめ」等の持ち回り報告（PTA協議会、生涯学習推進員協議会、各区連絡会代表、事務局）

【31年度】

(5～6月) 31年度各区連絡会の実施

(6～8月) 各区連絡会報告作成、まとめ、全市連絡会準備

(8～9月) 31年度全市連絡会の実施

5) まとめ

《資料7》

「大阪市子どもの読書活動推進連絡会」について、10年間の達成を基盤とし、今後の発展に向けて、課題整理した。現在ニアイズベターの考え方のもと、区役所職員が教育担当をかねている。この取り組みを連絡会に反映させ、区全体の意識・環境の醸成につなげる。他都市の事例も参考にして、実現性のある提案とした。これにより「第3次大阪市子どもの読書活動推進計画」のもと、今後の大阪市の子どもの読書活動の一層の推進が期待できる。

「大阪市子ども読書活動推進計画」とは

計画策定の経過

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていくうえで欠くことのできないものであり、社会全体で積極的にそのための環境を推進していくことは極めて重要です。

平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」（推進法）が施行され、子どもの読書活動の推進に関する基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務等を明らかにしました。同法において地方公共団体は、推進計画を策定するよう努めなければならないとされています。

国

「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」
平成14年 → 平成25年（第三次基本計画）

大阪府

「大阪府子ども読書活動推進計画」
平成15年 → 平成28年（第3次計画）

本市における計画策定 「推進法」第9条第2項に規定される「市町村子ども読書活動推進計画」

【第1次計画】 国の「基本計画」、府の「大阪府子ども読書活動推進計画」を基本として18年3月策定

【第2次計画】

- 平成19年度から毎年、有識者、社会教育団体、各区のボランティアグループ代表者等で構成する「大阪市子ども読書活動推進連絡会」（以下「連絡会」）を開催し、学校、図書館等における実施状況の報告・検証を行う。
- 素案について「連絡会」での有識者等からの意見聴取を行い、原案作成
- 平成24年12月教育委員会議での審議、パブリックコメントの実施
- 平成25年3月教育委員会議で可決、4月公表

- 平成27年4月 改正学校図書館法の施行
- 平成29年3月「大阪市教育振興基本計画」・「生涯学習大阪計画」改訂
「大阪市教育振興基本計画」施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援
取組み:学校図書館の活性化、市立図書館から小・中学校への図書の団体貸出、地域図書館の整備など
目標:「全国学力・学習状況調査」における不読回答、読書好きの児童・生徒の割合を全国平均に

第2次計画、「大阪市教育振興基本計画」を継承して、第3次計画を策定する

「第2次大阪市子ども読書活動推進計画」の振り返り

重点的取組みと成果

10項目中6項目達成

重点的取組み	23年度 実績	28年度 (目標値)	達成
① 子育て支援施設での読み聞かせ	97か所	110か所(105か所)	○
② 学校図書館(小) 週当たり開館回数	4.2回	7.6回 (5回以上)	○
③ 「読書が好き」な児童・生徒の割合(「全国学力・学習状況調査」)	(小) 66.6% (中) 56.8% 【H24年度】	(小) 69.9% (中) 59.6% (全国平均(小) 74.6%(中) 69.9%)	△
④ 昼休みや休みの日に学校図書館や地域図書館を利用しない児童・生徒の割合(「全国学力・学習状況調査」)	(小) 48.1% (中) 72.8% 【H24年度】	(小) 45.0% (中) 71.9% (全国平均(小) 31.1% (中) 58.0%)	△
⑤ 市立図書館 児童書の貸出冊数	270万冊	312万冊(280万冊)	○
⑥ 市立図書館 13～19歳の年度利用者数	18.9千人	19.0千人(※) (22.0千人)	△
⑦ 「ティーンズのページ」アクセス数	6.3千件	6.6千件 (10.0千件以上)	△
⑧ 市立図書館から小・中学校への団体貸出冊数	5.2万冊	11.8万冊 (6.0万冊以上)	○
⑨ 読書活動支援ボランティア数	2.4千人	2.5千人 (2.5千人以上)	○
⑩ 「子どもの読書活動推進連絡会(全市、区)」	全市、各区年1回以上開催 (同・年1回以上開催)		○

未達成の課題

- ◎「全国学力・学習状況調査」における
 - ・「読書が好き」と答える児童・生徒の割合
 - ・学校図書館・室や地域の図書館を利用しない児童・生徒の割合
- ◎ティーンズ世代の市立図書館利用
 - ・年度利用者数
 - ・市立図書館ホームページ「ティーンズのページ」アクセス数

分 析

- ・学校図書館補助員の配置によって開館回数を増やし環境整備を進めたことにより、「読書が好き」と回答する児童生徒の割合は増えたが、全国平均の数値も改善したため、全国平均との差は残っている。
- ・中学生の指標数値の改善はゆるやかで、学校段階が進むにつれて読書離れが進む、という全国的な傾向と同様の状況が見られる。
- ・学校図書館の環境整備が進んでおり、学校図書館を活用した教育の一層の推進が求められる。
- ・中高校生が課題等で活用できるブックリストの掲載等、市立図書館による、ティーンズ世代のニーズに、より即した情報提供が求められる。

対 応

- ・魅力ある学校図書館づくりを進め、学校図書館を活用した教育を推進
- ・中高校生がよく利用している情報提供サービスから「ティーンズのページ」等への誘導を行うなど、SNSを活用した情報発信

(※) 平成26年1月から実施のカード統合(1人1枚)を考慮した補正值

第3次計画（平成30年度～32年度）の概要

すべての子どもが生き生きと読書を楽しめるよう、
家庭、地域、学校が連携して取り組みます

最重要目標	現状	目標値
①「全国学力・学習状況調査」 読書を「全くしない」児童・生徒の割合【新】	(小)26.8%、(中) 50.0%【H29.8】	全国平均
②「全国学力・学習状況調査」 「読書は好きだ」と答える児童・生徒の割合	(小)69.5%、(中) 59.1%【H29.8】	全国平均

※最重要目標は大阪市教育振興基本計画と整合させた設定

取組目標・指標	現状	目標値
③子育て支援施設の読み聞かせ実施施設数割合	100%	100%
④学校図書館週当たり開館回数 (小学校：週20回、中学校：週15回中)	(小)7.6回 (中)7.2回	(小)8回以上 (中)8回以上
⑤小中学校の大阪市図書標準達成【新】	100%	100%
⑥小中学校での一斉読書実施率【新】	(小)88.3%、(中) 78.9%【H29.5】	(小)100%、 (中)100%
⑦「全国学力・学習状況調査」学校図書館や地 域図書館を利用しない児童・生徒の割合	(小)45.7%、(中) 72.1%【H29.8】	全国平均
⑧市立図書館 児童書の貸出冊数	312万冊	315万冊
⑨「としょかんポイント」15歳以下参加者【新】	4.6千人	10.0千人
⑩市立図書館 13歳～19歳の登録者数	3.7万人	3.9万人
⑪「ティーンズのページ」アクセス数	6.6千件	7千件
⑫調べかたリーフレットの作成【新】	—	全校配布
⑬子育て支援施設等への配本【新】	380回	430回
⑭学校との連携事業回数【新】	4,481回	4,600回
⑮市立図書館から小・中学校への団体貸出冊数	11.8万冊	13万冊
⑯市立図書館のSNSでの情報発信件数【新】	1,102回	1,200回
⑰市立図書館ホームページアクセス数【新】	778万件	800万件
⑱読書活動支援ボランティア数	2,565人	2,500人維持
⑲市立図書館と区役所等との連携事業回数【新】	1,914回	2,000回
⑳「子どもの読書活動推進連絡会（全市、区）」	年1回以上	年1回以上

基本方針1. 子どもの読書環境の整備・充実

家庭・地域での読書活動推進

乳幼児健診時の読み聞かせ実施、図書館との連携・協力

学校での読書活動推進

学校図書館の環境整備

学校図書館を活用した教育の推進：読書に親しむ児童生徒の育成
児童生徒の情報活用能力の向上

市立図書館での読書活動推進

児童書の充実、乳幼児向け催しの実施

中高生を中心とした若年層への働きかけ

市立図書館 Wi-Fi 環境の利用促進

地域資料・地域の情報の収集・発信

幼稚園・保育所・子育て支援施設、学校との連携・支援強化

基本方針2. 子どもの読書活動に関する普及・啓発

「子ども読書の日記念事業」など読書普及・啓発事業の実施

SNSを使った情報発信の拡大

基本方針3. 人と本、人と人をつなぐ場の拡大

区役所など地域の関係諸機関・団体の連携協力

「子どもの読書活動推進連絡会」の継続実施

《資料9》

平成30年度大阪市子どもの読書活動推進連絡会事務局名簿

(平成30年12月1日)

教育委員会事務局中央図書館

所 属	氏 名
生涯学習部部長兼中央図書館館長	三木 信夫
中央図書館副館長	大久保 典子
中央図書館総務担当課長	黒野 大輔
中央図書館利用サービス担当課長	川窪 和子
中央図書館地域サービス担当課長	宮田 英二
中央図書館地域サービス担当課長代理	林 隆子
中央図書館利用サービス担当課長代理	長谷部 絵理
中央図書館利用サービス担当課長代理	藤井 直美
中央図書館 担当係長	荒木 麻里
” ”	波多野 圭子
” ”	小笠原 智香
” ”	窪田 聡美
” ”	澤谷 晃子
” ”	戸倉 信昭
” ” (兼)	保原 早苗
” 総括指導主事 (兼)	片岡 万喜雄
” 総括指導主事 (兼)	関谷 茂俊
北図書館長	石田 玉恵
都島図書館長	井上 有佐
福島図書館長	川嶋 恵子
此花図書館長	片山 理子
島之内図書館長	中田 夕子
港図書館長	松本 実
大正図書館長	浅川 裕俊
天王寺図書館長	池上 也之保
浪速図書館長	濱田 千賀子
西淀川図書館長	平田 満子
淀川図書館長	森家 さち子
東淀川図書館長	角田 人志
東成図書館長	野村 薫
生野図書館長	竹田 君代
旭図書館長	井上 由美子
城東図書館長	檜崎 佳代
鶴見図書館長	田野 晶子
阿倍野図書館長	鎌田 恵子

所 属	氏 名
住之江図書館長	波多野 圭子
住吉図書館長	濱田 仁美
東住吉図書館長	増本 満佐穂
平野図書館長	米川 くりえ
西成図書館長	松山 智子

教育委員会事務局指導部

所 属	氏 名
指導部 首席指導主事	富山 富士子
指導部 総括指導主事	岩井 伸夫

教育委員会事務局生涯学習部

所 属	氏 名
生涯学習担当課長	松村 智志
生涯学習部担当係長	山本 竜司

「大阪市子どもの読書活動推進連絡会」報告書 平成31（2019）年3月

大阪市教育委員会 〒530-8201 大阪市北区中之島1-3-20